

行雲流水

No.228 令和4年6月27日発行

勝^かって驕^{おご}らず、負^まけて腐^{くさ}らず、顔^{かお}を^あげて進^{すす}め！！

校長 寒河江 正人

生徒諸君、おつかれさん！

5月2日（月）の**駅伝競走**で始まり、6月10日（金）の**水泳競技**、そして、18日（土）19日（日）の**全競技**まで、約1ヶ月半に亘る「第62回北村山中学校総合体育大会」が終了して、はや1週間が経過した。

競技大会は、「**勝負事**」だ。

だから、「**勝ち・負け**」や「**順位**」は、常に付きものである。

「**勝者**」があれば、「**敗者**」もある。

「**1着**」があれば、「**ビリ**」もある。

「**勝者**」になれば、きつとうれしかろう。「**敗者**」になれば、きつとくやしかりょう。

「**1着**」になれば、きつとうれしかろう。「**ビリ**」になれば、きつとくやしかりょう。

では、「**勝者**」や「**1着**」だけが「**価値あるもの**」「**得られるものがある**」ののだろうか？

「**敗者**」や「**ビリ**」には「**価値はない**」「**得られるものはない**」ののだろうか？

いや、決して「**そんなこと**」は、ないはずだ。

「**一時の勝敗や順位**」のみに縛られて、勝って驕り高ぶり、謙虚さや感謝の心を忘れる者は、たちまち滅びる。これまでの人類の**歴史**が、それらを**証明**しているではないか。

ただし、負けて感情的になって取り乱し、周囲にやつあたりをしたり、敗因を他人のせいにするような者には、何も得られるものはない。「**学び**」も、「**成長**」もない。

「**最も大切なこと**」は「**目標に向かって日々懸命に取り組む過程で何を学んだか**」である。**弱い自分と向き合い、仲間と励まし合い、高め合う過程において、何を学んだか**である。

「**真の勝者と敗者の分かれ道**」は、

勝っても負けても、順位によらず、「**結果という現実**」を謙虚に受け止め、勝者を称え、

「**自分のこれからをどう成長させるのか**」を見直す糧（かて）にすることである。

これから大会を迎える吹奏楽部、そして、様々な外部活動に取り組んでいる生徒諸君、すべての本校生徒諸君、君たちならきっと「**賢明な判断と行動**」がとれると信じている。

「**日常生活**」「**何気ない日々の積み重ね**」を真摯に見直し、顔を上げて、前へ進め！！